

3月定例市議会 一般質問から

伊那市議会3月定例会の一般質問は、対面式・一問一答方式及び一括方式により、3月11日、12日、13日の3日間にわたって行われ、20人の議員が質問に立ちました。質問と答弁の主な内容をお知らせします。



平岩國幸

人口減少対策と企業誘致について

問 平岩國幸議員 ①人口減少対策には、雇用確保が重要。企業誘致の今後の計画と見通しはどうか。②近年首都圏の人口増が顕著になっている。これに対し市長の考えは。

答 市長 ①今年度は3社に用地の提供ができた。現時点では市の保有地5団地9区画のうち、4団地5区画は企業が視察に来ており具体的に交渉を継続中である。②企業・大学・研究機関などの地方移転を進めるべき。人口減少社会に対応すべく、国に先んじて

子育て・孫育てについて

問 平岩國幸議員 伊那市には子供を育てる「3人会」というグループがある。市長はこのグループと懇談されているが、その感想はどうか。

答 市長 自分たちの力で頑張る努力している。この意志を他の地区にも広げたいという夢を持っている。その実現に向けて応援をしていきたい。



前田公子

日本遺産と仁科五郎盛信

問 前田久子議員 文化庁では地域に点在する城や遺跡、伝統芸能などの文化歴史を日本遺産として認定する。高遠城跡、高遠石工など数多い高遠の文化を遺産として登録するため認定申請の考えは。また、高遠城主仁科五郎盛信の宣揚と小中学生への伝承をどう考えるか。

答 市長 高遠石工など魅力ある遺産が数多くあるので、それを世界に向けて戦略的に発信していきたい。伊那市を語るストーリーやパッケージの仕組みを検討していきたい。盛信は全国にファンも多い。今後情報収集に努め、情報発信を進めたい。各学校へも学びを働きかけていく。

公園整備について

問 前田久子議員 若い子育て世代の交流人口を増やすため自然をふんだんに取り入れた大型公園の設置を求める声が強い。整備する考えは。

答 市長 川や段丘林など伊那の豊かな自然を自然公園に見立てて、その中で過ごすことが望ましい。あえて都会型の公園をつくる考えはない。



竹中則子

地方創生は「地方の知恵から」 「市民の創造性から」 人口減少にストップを

問 竹中則子議員 ①地方創生の伊那市版総合戦略の目標の一つ「若い世代の結婚・出産・子育て」の希望をかなえることについて、出産後の生活や育児への不安が大きくな母親は少なくない。産後ケアの充実を。②産後夜泣きや、自身の身体に悩み、うつ状態に陥る母親もいる。産褥宿泊負担金の助成を。③民間産科医が7月に開業予定とのことと喜ばしい。里帰り出産も可能となり、伊那市の子育て支援に明るい光が感じられるが既存の助産所への影響は。④母親たちの産後ケアニーズ調査の実施を。

答 市長 ①乳房ケアや育児相談に利用できる補助券を1人につき2000円を2枚発行する予定。5月に発行し、4月以降に出生した母親から利用できるよう対応したい。②1日あたりの費用の2分の1を市で補助する。今後継続したい。③開業助産所は、それぞれの妊婦に適したきめ細かなケアをしてもらっている。今後も重要な役割を担ってもらえると期待している。④乳児健診時に実施した。今後も実施する予定である。



飯島尚幸

森林資源の利活用

問 飯島尚幸議員 ①伊那市50年の森林ビジョン策定のなかで、特に中央アルプス西山一帯のニホンジカ対策は喫緊の課題。具体的な見解を。②緑の少年団未設置校への対応は。

答 市長 ①20頭規模で群れの目撃情報が相次い

でおり、今後個体数の急増や食害による災害の発生が大変心配。現段階では絶対数が少ないため、捕獲は困難。防衛を喫緊の課題として、地域、行政、猟友会で連携して取り組みたい。

教育長 ②小学生時代の森林体験は人間形成の上からも重要。未設置校へは情報共有していきたい。

「信州そば発祥の地・伊那」の利活用

問 飯島尚幸議員 「信州そば発祥の地・伊那」をなお一層市の内外にアピールし、定着化させるための振興策が必要。好評のまほら伊那市民大学で、そば学の講座を提案するが。

答 市長 来年度は内外に向けて総力をあげて宣伝、事業者などと協力し、そば振興会をつくる。「発祥の地」のそば証明書発行なども検討する。そば学の導入はよいので啓発活動に取り組む。



若林敏明

事業発注の空白をなくす(平準化)

問 若林敏明議員 公共事業発注は年度初めに少ない。適切な工期確保と経営安定には平準化すべき。先進市では12月補正予算で事業を前倒しする債務負担を行い、4月早々に事業着手できるところもある。

答 市長 国県補助事業は交付決定を受けてからの着手となるため早期発注は難しい。道路・下水道など市単事業は優先的に発注し、平準化に努めたい。国が策定した指針を参考に慎重に対応していきたい。

子育て「日本一」になった伊那市

問 若林敏明議員 雑誌「田舎暮らしの本」で子育て世代にぴったりのまち部門で一位になったが、千載一遇の好機。市民も移住希望者もそれ



唐澤千明

森林・里山環境整備の推進

問 唐澤千明議員 ①森林・里山環境整備に国、県の補助はあるが市の補助は。②県民一人あたり500円を徴収する森林税の活用と将来ビジョンは。③間伐材などを求める人への仕組みづくりが必要だが。

答 市長 ①国、県が適正と認めたものに10分の1のかさ上げ補助を実施。補助金

の適正な執行に努めている。②森林税を活用して地域材利用や木育推進、森林整備などを推進している。50年先を見据えた森林ビジョンを策定中。③伊那市フォレストクラブの里山整備の会員も増えた。間伐材を処分したい人と薪を必要とする人を結びつけるための情報提供をしていく。

伊那市営霊園の今後の取り組み

問 唐澤千明議員 ①墓地の荒廃や管理料の滞納が深刻な問題だが、市で撤去・改葬する考えは。②墓を守る人がいない場合でも安心して入ることのできる合葬式墓地については検討も必要な時期にきている。

答 市長 ①滞納については、法律に基づいて滞納処理を行い解消に努めている。改葬については条例で手続きを認めているが、すぐに改葬することは難しい。②寺院や公設でも始まっている合葬式墓地については検討が必要な時期にきている。



飯島光豊

米価暴落対策について

問 飯島光豊議員 米価暴落対策の要請は。①対策などを要請する。②農業委員会、過剰米の市場隔離収入保険制度の検討等。

答 市長 地域にとって不利益となつてはならない。農業委員会、反対である。

戦後70年を語り継ぐ平和の事業について

問 飯島光豊議員 ①市の平和の事業は。②陸軍伊那飛行場など遺構保存のマップづくりは。③慰霊碑などを平和教育の場としては。④戦争資料を収集し、常設展示の考えは。⑤非核平和都市宣言

塔の再建は。

答 市長 ④現存の施設を工夫しながら展示したい。⑤市の懸垂幕掲揚塔に掲げており、新たに建設する考えはない。

教育長 ①創造館で展示を行う。②平和教育の場として活用したい。小中学生向けの郷土資料作成の中で検討したい。③伊那公園の「少年の塔」や阿智村の「満蒙開拓平和記念館」に学習に行った例もある。映画「望郷の鐘」も含め各学校で紹介したい。④資料の寄贈寄託を呼びかけていく。



八木 沢 眞 実

伊那西小・新山小の自校給食は伊那人を呼び込む魅力の一つとして残し、活用すべきではないか

問 八木 沢 眞 実 議員 ①伊那西、新山小学校の給食を共同調理場方式とする方針だが、地域で育む豊かな自校給食こそ地域の魅力。人口減少が進む中で地域に人を呼び込むためにも、自校給食を残して

生かすべき。②地域活性化へ住民が立ち上がるために避けなければならぬことは、住民のあきらめや無関心。自校給食廃止方針は地域で考える時間を与えないまま決定事項として通知しており、あきらめや無関心につながる。③西部地区は景観など地域資源に恵まれ、伸びる可能性がある。給食を生かして住民自らが地域づくりをするチャンスとすることはできないのか。立ち上がる住民を増やすためにも、給食を残すことは必要な投資ではないか。

答 市長 ①財政健全化のため統合が必要。学校の魅力は給食だけではない。②給食だけでなく住民が地域の魅力や夢を語る事が大切で、動きがあるところは後押ししたい。③あまたある地域の魅力に加えて、住んでいる方々のこれからの活動に期待したい。地域の魅力は給食だけではない。



富 島 良 夫

応は。

答 市長 現時点ではあくまで専門家による調査結果の報告で、環境省が候補地除外の結論を出したわけではないと受け止めている。今後、環境省の結果を受け、関係10市町村で方向性を示したい。またユネスコエコパークは世界遺産登録に劣ることのない高度なプログラム。ジオパークとの相乗効果による地域活性化に役立てたい。

東京五輪の2020年開催の参加国事前合宿誘致の件について

問 柴 満 喜 夫 議員 東京五輪組織委員会は、3月20日から事前合宿を誘致希望する自治体に意思表示の申請を受け付けること。伊那市として東京五輪、パラリンピック参加国の事前合宿誘致を。

答 市長 事前合宿については、ふるさと大使を通じて交流のある東ティモールを念頭に考えたい。組織委員会を通じた申請については、競技の要件を満たす施設があるか確認して判断したい。

これからの学校給食について

問 宮 島 良 夫 議員 ①伊那西、新山小学校の給食調理場を共同調理方式で整備する方針が示された。地産・地消や食育を推進する市長の考えと違うのでは。自校方式にするよう考え直すべきでは。②給食技師に正規職員が少なく、安全・衛生管理面で現場に不安がある。一校一名は正規職員を置くべきでは。

答 市長 ①自校方式でなくとも学校環境や地域とのかかわりから食育は推進できる。来年から全校で取り組む農業体験を通じた特色ある給食を内外に発信したい。②学校の給食職場は正規職員でなくとも運営が可能。臨時職員を採用する場合は事前に研修を重ねていく。



野 口 輝 雄

伊那市における新教育委員会制度の組織編成と今後の運用について

問 野 口 輝 雄 議員 4月からの新教育委員会の組織と運用はどうなるのか。また総合教育会議の事務局はどこに。

答 市長 教育長の任期終了までは現体制で行う。総合教育会議の事務局は総務部総務課に置き、教育長に補助執行させる予定。

総合教育会議の運用について

問 野 口 輝 雄 議員 総合教育会議を開催する市長の伊那市の教育に対する思いは。

答 市長 これまでと同じように、伊那市らしい教育を継続して推進する。

学校現場における次亜塩素酸ナトリウム(塩素剤)の使用について

問 野 口 輝 雄 議員 危険な塩素剤の使用を教育現場ではやめたらどうか。

答 教育次長 新薬剤の導入については児童生徒の安全と殺菌効果を比較検討して検証した上で検討したい。

地域自治会加入促進に關する伊那市役所の転入者待合室の対応等に関する提案

問 前 澤 啓 子 議員 保育料で年約20万円もの差が出る事例もあり不公平。みなし適用を。

答 市長 国の動向などを見ながら検討する。

未婚のひとり親家庭に寡婦控除の適用を

問 前 澤 啓 子 議員 伊那西、新山小学校の給食配送の経過、西箕輪の弁当について議会に説明がなく議会軽視では。

答 市長 一つ一つ議員に相談するいとまはない。

どの子にも自校給食を

問 飯 島 進 議員 ①伊那市の木「かえで」の見本園や「かえで」の森、「かえで」

答 市長 一つ一つ議員に相談するいとまはない。



飯 島 進

伊那市の木「かえで」について

問 飯 島 進 議員 ①伊那市の木「かえで」の森、「かえで」

問 野 口 輝 雄 議員 自治会加入促進対策強化のため市の役所受付窓口でできるいくつかの方策を提案したい。



黒 河 内 浩 治

27年度予算について

問 黒 河 内 浩 治 議員 ①景気対策としての対応は。②市民生活に身近なところでも少し予算を盛るべきでないか。③地域自治区、地域協議会は今後どう運用していくか。④地方創生総合戦略審議会が設置されることになるが、この審議会から何をしようとするのか。⑤合併特例債、過疎債の今後の使い方の方針は。⑥自然災害防止への市の対応は。

答 市長 ①プレミアム商券の発行などで消費喚起を図るとともに農林業、観光面で雇用創出対策を実施

問 丸 山 徹 一 郎 議員 ①中心市街地活性化基本計画・市街地総合再生計画に挙げられている活性化事業の現状、今後の進め方は。②中心市街地空き店舗等活用事業補助

答 市長 ①「かえで」はたくさん種類がある。見本園については専門家の意見を聞きながら要・不要も含めて考えていかなければいけない。街路樹についてはプロジェクト委員会を選定中であるが、一般的に「かえで」は管理が難しい。③啓発に努めていきたい。

問 丸 山 徹 一 郎 議員 ①中心市街地活性化基本計画・市街地総合再生計画に挙げられている活性化事業の現状、今後の進め方は。②中心市街地空き店舗等活用事業補助



丸 山 徹 一 郎

市街地の活性化について

問 丸 山 徹 一 郎 議員 ①中心市街地活性化基本計画・市街地総合再生計画に挙げられている活性化事業の現状、今後の進め方は。②中心市街地空き店舗等活用事業補助

金制度の対象区域に高遠町の商店街を加えることはできないか。③市営駐車場の料金。現状の料金体系でよくないか。生涯学習センターなどの利用者にも応分の負担をしていただければ。

市長 ①市街地活性化事業は地権者が主体となり行政も協力して進めるものである。現状に照らして、優先度が高く、真に必要な事業を選択して実施していきたい。

②中心市街地と同等の区域と判断できるか、商工会とも協議して決めていきたい。③料金改定については、施設の利用目的、利用形態などを精査し、公共性、市街地活性化、財政健全化、受益者負担など総合的に判断して決めていきたい。

年度の切り替えについて

丸山敬一郎議員 行政と区との年度の統一を。

市長 アンケート調査では賛否半々、行政指導で統一はしないことにした。区長や地域の意見を聞きながら検討していきたい。



橋爪重利

除雪機整備補助金を有効に利用してほしい。

中高一貫教育について

橋爪重利議員 ①文部科学省は、3つの実施形態を示している。一体的に中高一貫教育を行うもの。併設型で高等学校入学選抜を行わない、同一の設置者のもの。連携型は市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能なもの。それぞれの特徴と県内での状況は、②よい点は、高校入試がない。6年間の長いスパンによる個人を見据えたゆとり教育が可能。経済・通学の負担が軽減。よくない点は、中学校へ進学するときの受験競争の低年齢化。学級編成に支障が出る。上伊那郡市に、中高一貫校の設置については、

教育委員長 ①併設型は、弾力的、系統的な編成が可能。連携型は、郷土



白鳥敏明

幹線道路整備計画の進捗状況

白鳥敏明議員 国道153号伊那バイパス、伊駒アルプスロード、環状南・北線の工事計画などの進捗状況は。

市長 伊那バイパスの工事は、野底から上の原間は順次用地買収を進めている。上の原から青島間は概略設計について関係区役員に説明している。ナイスロードへの接続は38年度を予定している。環状北線は本年度地形測量、概略設計終了見込み。来年度都市計画道路の計画変更をする。環状南線は昨年からJR東海と踏切の位置や統廃合の事前協議に入り最終段階。来年度から計画協議に入る。32年度完成に照準を合わせ進めている。

河川環境整備活動の取り組み

の学習や選択の拡大など教育課程の工夫を通して、個性の伸長・学力の向上とともに地域の活性化などが期待できる。県内の公立中高一貫校は、屋代と諏訪清陵で、私立は4校。②県の動向を注視していく。現時点で設置の考えはない。市の教育環境に寄与する場合には、県への要望などを検討したい。



中山彰博

学童クラブの現状と今後の対応

中山彰博議員 ①長期休業特別学童クラブを

全ての学童クラブで実施を。②お盆期間も学童クラブの開所が必要では。③開所日、環境、指導方法などの情報交換のため関係者、保護者を含めた運営委員会の実施を。④現状は指導員が少な過ぎるのでは。拡充を。⑤学童クラブの今後の方針は。

市長 ①国の補助制度の動向を見ながら、今

白鳥敏明議員 美篤地区では、長年河川環境整備活動を行っている。防災・景観維持のためにも天竜川や三峰川流域で推進を。

市長 国や各団体により環境整備が実施されている。外来植物駆除事業では啓発チラシ配布、駆除講習会、重点地区で集中駆除を予定している。河川環境整備活動は景観維持・防災・減災にもつながるので地域の皆さんの協力を得ながら関係機関と連携し、取り組んでいく。



柳川広美

ごみ焼却施設からの排ガスの安全確保

柳川広美議員 広域連合は八乙女最終処分場を掘起して焼却することを、水銀が含まれている可能性や経済性から中止と決めた。これまでの説明と違う。①新施設で水銀などが含まれる下水道汚泥の処理は中止を。②周辺住民との協定に水銀など有害

物質の排ガス規制を設けるべき。③入札条件に排ガスの重金属など有害物質規制値を。④これまでの説明が間違っていたことを謝罪するべき。⑤掘起しごみを処理しないのなら高純度ナガス化溶融は見直しを。

市長 ①汚泥の重金属は微量。国の規制が示されれば適切に対応する。②法の規制値がない。③充分なダイオキシン対策で重金属も処理される。規制値がない段階では難しい。④排ガスの重金属はごく微量で健康被害を及ぼすものではない。掘り起こしの中

止は、経済性の評価が主な理由。⑤ストーカー方式の方が安い。最終処分までトータル的に考え溶融方式を選択した。

唐澤稔議員 ①人口減少に對する取り組みは。②地域の農業の集約化、法人化について考えは。③工場、企

地方再生について

唐澤稔議員 ①人口減少に對する取り組みは。②地域の農業の集約化、法人化について考えは。③工場、企



唐澤稔

業誘致について考えは。**市長** ①生産年齢人口を増やす目的で「移住・定住促進プログラム」を策定し、さまざまな施策を進めている。また、今後5か年の伊那市の地方創生をまとめた「地方創生総合戦略」を27年度に作成し、元気な伊那市づくりを進めたい。②農業は市において重要な柱の一つ。農地の集積は「人・農地プラン」に基づき国の協力を活用しながら強力で推進したい。また、集落営農組織全22団体のうち11団体が法人化。残りの団体も法人化に向けた検討を行っている。③上伊那全体で積極的な企業誘致を推進し、雇用の創出と人口増に努める。

除雪について

唐澤稔議員 常会の除雪の出勤に補助金は出せないか。

市長 生活道路は地域の方によって除雪していただいている。孤立が発生するような場合は市で対応する。各地区に対し直接経費を補助することは考えていない。

後検討していく。②保護者の就業形態を踏まえ、希望に応じて今後検討する。③27年度より実施する。④児童40人に指導員2人以上という新基準をふまえ、補助員利用も含め検討する。⑤児童の安心安全のため指導員の研修、施設整備に努める。

森林政策について

中山彰博議員 ①里山の新たな航空レーザー測量を利用した防災、減災対策を。②林業就業者の後継者育成のため、新規就業者支援、情報交換会などの実施を。

市長 ①県の事業を注視し、県事業の成果が得られれば、市町村における山地防災対策に役立てるよう要望したい。②通年就業できるように林業全体の事業量拡大と、農業・観光業とを関連付けた環境づくりを立ち上げたい。

お知らせ

傍聴にお越しく下さい

3月定例会市議会は、104名の方が傍聴されました。定例会市議会は、どなたでも傍聴できますので、お気軽に傍聴にお越しく下さい。なお、団体で傍聴される場合は席に限りがありますので、あらかじめ議会事務局までご連絡ください。

3月定例会市議会は、104名の方が傍聴されました。定例会市議会は、どなたでも傍聴できますので、お気軽に傍聴にお越しく下さい。なお、団体で傍聴される場合は席に限りがありますので、あらかじめ議会事務局までご連絡ください。

議会中継

議会中継は、伊那ケーブルテレビ「伊那市チャンネル」で放送しています。翌日には再放送も行っていますので是非ご覧ください。

次回6月定例会の詳しい放送予定は、「市報いな」6月号をご覧ください。

公式フェイスブック

伊那市議会では、公式フェイスブックを開設しています。最新の情報を掲載していきますので是非ご覧ください。

http://www.facebook.com/inashigikai



伊藤 泰雄 議長